

2008 年度 第 24 回

在日アジア人留学生への研究補助

受給生紹介



東京・三田の慶應義塾大学にて

RASAーアジアの農村と連帯する会
Rural Asia Solidarity Association

氏名 孫 皎 (SUN Jiao)
国籍 中国
大学 石川県立看護大学 博士課程 2年



(留学目的)

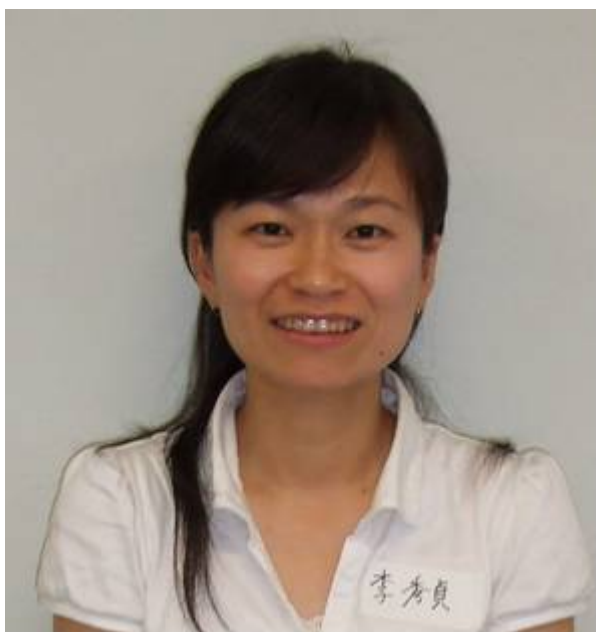
私は、中国の大学病院で看護師として約13年間老年病棟で勤務してきた中で、中国の老人看護のあり方に疑問を抱き、日本での研修に参加しようと考えた。2003年には、研修生として石川県立看護大学で1年間研修させて頂いた。日本の先進的な看護における知識や技術について、特に高齢者を囲んだコミュニティケアについてさらに深く勉強したいという気持ちを持ち、2004年4月から石川県立看護大学大学院の修士課程に進学した。終了後は、博士後期課程に進学し、現在地域の高齢者に対する高齢化社会が深刻になってきている中国で、認知症予防のため看護補助やプログラム開発を目的とした研究活動に取り組もうと考えている。

(研究課題)

太極拳を取り入れた認知症予防プログラムの開発に関する研究—高齢者の心身に与える影響における日中比較—

太極拳を行うことがどのように認知症予防に効果的であるのか、高齢者の心身にどのように影響があるかについての研究されたものは少ない。本研究では、太極拳により、認知症予防のため日中における高齢者の心身に与える影響を明らかにすることを目的とする。

氏名 李 秀貞
国籍 韓国
大学 立教大学 修士課程 2年



(留学目的)

私は韓国で社会福祉士として服し現場で約4年間働いた。“釜山広域市障碍人総合福祉館”で知的障害者の一般雇用を目指す職業適応訓練と作業場の仕事、それから日常生活の支援を担当して知的障害が地域で住みながら普通の生活ができるような支援と関わってきた。日本は障害者の地域生活を支えている福祉制度が韓国より進んでおり、私は特に知的障害者のセクシャリティに関心を持ち、知的障害者とセクシャリティ研究の必要性を感じて、現在日本の大学院修士課程に入った。

(研究課題)

現在、韓国の知的障害者福祉では日常生活で彼らを援助する場として入所施設がある。しかし当事者のニーズに対して十分に対応できていない入所施設の生活は知的障害者が一般市民として当たりまえに楽しめる権利が保障されていない場合が多い。このような状況で私は知的障害者が地域で普通の市民と同じような生活ができるように「韓国における知的障害者結婚カップルに対する支援のあり方に関する研究」をしていきたいと思っている。

氏名 金 恩正 (KIM Eun Jeong)
国籍 韓国
大学 明治大学 博士課程 1 年



(留学目的)

博物館の学芸士として勤務する間に発掘してきた様々な遺物の中に、日本で出土する石器との形態的類似を示すものを見だし、これを契機として、日本の旧石器時代研究に関心を持った。そして、様々な遺物の中でも後期旧石器時代後半期の細石器文化について、共通点差異を明確化し、そうした共通点・差異が生じた原因の分析および検証を研究テーマとして設定した。しかし、博物館の職員としての業務が多忙となり、自信の研究テーマへの取り組みが難しくなってしまった。そのため自身の研究テーマに集中できる時間と環境を一定時間確保したいと考え、業務をしばらく休職し、日本へ留学する事を決心した。

(研究課題)

日・韓両国の後期旧石器時代の様相を比較して両国の共通点と相違点を整理する。そして、その結果として抽出された内容に対して、その原因を模索してみる。これに対しては当時の人類生活および道具に最も影響を及ぼした自然環境を検討する。このために、まずは日韓両国の後期旧石器時代に対する各々の研究史を整理して、今までの研究方向を見直す。そして日・韓両国の遺跡および遺物の様相を整理する。これに関連して、単純に遺物の形態的分析だけでなく、技術的分析もあわせて行う。そして、その石器製作の技術的特徴を石器作りの実験で検証する。それによって、両国の様相の原因と共に生活相の復元ができると考える。

氏名 韓 燕 (ハン エン)
国籍 中国
大学 お茶の水女子大学 人間文化研究科 修士課程2年



(留学目的)

最初は「日本語をもっと上手に話したい」といった単純な思いで日本留学を決意しました。しかし、日本にきてから、日本人の方々との触れ合いが増えていく内で、日本人また日本社会に対する理解が深まっていき、「自分」そして、自分の国・中国についての認識が明確していくようになりました。そして、一人の中国人として、「日本語を上手に話せる」という目標より、それ以上意味があり、やりがいがあることを見つけました。

それは以下の「現在の研究課題」であります。それは私が日本に行かされて、負っている使命だと思っております。子どもたちが、ほかの子と同じ教育を受ける権利があります。彼らと出会えた私が、その権利を守ってあげることが、少しでもできればと願っています。

(研究課題)

外国から日本に来て、定住予定の中学生及び義務教育の年齢をこえた日本語を母語としない子ども達が年々増えています。彼らにとって外国での生活は学校も含めて、精神的にストレスが多い時期であって、不就学、不登校または日常会話はうまくできたとしても、教科学習になかなかついていけないことが多いです。そういったような時期が続けていくと、学習意欲低下問題が生じ、また、学習活動自体が中止したため、知能の発達にも大きな影響を与えてしまうと予想されます。現在子ども達にいかに学習意欲をもってもらうかと工夫をし、母語を併用する教材の研究を続けています。将来、中国に帰っても、年少者の日本語教育につくしたいと思っております。

氏名 李 吟京 (LEE Ryong Kyong)
国籍 韓国
大学 立教大学 学部4年



(留学目的)

留学するまで「沈黙を強いられた者たちの戦争研究」の必要性を認知し、学習と研究を進めてきたが、自分が会ってきた人たちは「朝鮮半島」に住んでいる人たちであった。自分自らの問題意識が「韓国」という社会の外までは拡張されていないことに気がついたのである。それゆえ、今日まで朝鮮半島とどの国より歴史的に関係が深い日本に留学して、韓国と日本を、それぞれの歴史と関係史を問い直したかったし、現在関連研究している。

(研究課題)

上記の問題意識から取り組んでいる研究テーマは、1948年前後に起き、3万人の島民が虐殺された「済州島四・三事件」をきっかけで、日本へ渡航した済州島人の家族の離散の経験と記憶に関する物である。当事者らの聞き取り調査と関連文献資料の調査を通じて、「韓国社会」から離散を余儀なくされ、戻りたくても戻ることができなかった家族の歴史に立ち入り、「済州島四・三事件」をめぐる記憶がいかに排除、忘却されてきたのか、いかに再構成されてきたのかを考察する。この歴史は「国民」・「民族」では把握できない示唆を与えてくれるだろうと思っている。

氏名 イダ キナシー Ida Kinasih
国籍 インドネシア
大学 金沢大学 博士課程3年



(留学目的)

During my study in Indonesia, I had found that most of Indonesia agriculture system was based on the improving the production but neglected the effect of environment. Japan also had similar situation. However, this country has a unique system called Satoyama where the human activities are harmonies with the environment which many applicable in Indonesia. I am planning to go back to Indonesia to be teach and apply my knowledge in this system and hopefully improve the Indonesia agriculture system to be more environmental friendly.

(研究課題)

I focused my study on earthworms and soil animal as those organisms are important to maintain the condition of soil. In Indonesia these organisms population are threatened by artificial fertilizer and insecticide. I am studying whether the distribution of them in Satoyama system. The main purpose of this study for answering some questions, e.g.:

1. How good is Satoyama to earthworm and soil animal?
2. How is earthworm and soil animal distribution in Satoyama system and which factor influenced it?

氏名 宋 柏諺 (ソウ ハクゲン)
国籍 台湾
大学 一橋大学 国際・公共政策大学院 修士課程 2年



(留学目的)

私は台湾の大学院において国際法を専攻し、研究の中核となる問題として、「気候変動防止レジームの有効性問題とその効率化メカニズム」と「核拡散防止レジームの構築」など外交政策立案に関する研究を日本で進めたいと思います。博士号を有する国家公務員を目指している私は、地球規模的な問題を足がかりとして、国際法の研究を進め、将来日本側の見解を台湾に導入し、もっと緊密な日台友好関係を構築したいと考えているので、日本の一橋大学の国際・公共政策大学院への留学を決心したのです。

(研究課題)

現在の研究課題は「気候変動防止レジームの有効性問題とその効率化メカニズム」です。気候変動防止レジームとは、気候変動枠組条約と京都議定書との総称であり、気候変動枠組条約は、地球温暖化防止条約とも呼ばれています。条約の目的は、大気中にある温室効果ガス濃度の安定化にあるが、各国政府が締約国会議での交渉の際、削減方法や削減目標数値などについて意見の対立が激しくて、一応枠組だけで合意し、2005年まで発行した京都議定書に具体的な削減目標と措置を明文化させました。この議定書は、先進国や資源生産国が自国への経済的衝撃を危惧しながら途上国、特に水没されつつある小島嶼国連合との十年ほどの外交折衝妥協後の所作であるので、さまざまな問題点が研究分析に値すると思います。

氏名 グリミラ サビティ
国籍 中国・新疆ウイグル
大学 東京大学 工学系研究科 修士課程 2年



(留学目的)

私の出身地、新疆ウイグル自治区では、社会生活の向上と共に自然災害の弊害も深刻になっています。2005年2月24日、カシュガル地震は人的、経済的甚大な被害をもたらした。日本は都防災工学で独自の技術を持ち、より高い専門知識を身につけるために、又、日本で学んだ知識を故郷に持ち帰り、防災事業に微力ながらお力添えしたいと思って日本の留学を希望した。

(研究課題)

私の出身地、新疆ウイグル自治区は地震危険度が高い地区と指定されています。中国は広い国土であり、各地の地理情報の格差が大きい為、政府の応急対策が遅れる場合が多い。一方防災知識と防災訓練等が普及していない、住民の災害意識が低い。従来災害発生後の応急対策を中心にする考え方は経済発展によって見直さなければならない。修士研究では中国の防災計画の現状を2003年カシュガル地震を対象にして把握して、中国政府は如何に国家歴史遺産都市カシュガル旧街区を保存する課題を前提して都市計画的防災計画を実行しているのかをカシュガルの現状から分析して問題点を明確にして、中国政府はカシュガルのような経済発展が遅れている地方文化都市に対して、如何に地域特性を考えた都市防災計画を行うべきかという問題点を検討して良いアイデアを提出する。

氏名 張 昕偉
国籍 中国・青海省
大学 東京大学 医学系研究科 修士課程 1年



(留学目的)

中国の青海省疾病予防センターで仕事をしたとき、たくさん問題が見つかりました。これらの問題について、分析と解決する能力が不十分で、もっと勉強したいと思いました。東大の国際保健専攻は発展途上国の衛生問題点と国際保健政策を分析して、色々研究を行っております。私はワクチン予防できる感染症がよくコントロールできるために、東京大学の留学が必要だと思いました。

(研究課題)

青海省は、中華人民共和国で最も高い麻疹発生を示している省のひとつです。特に、近年、8ヵ月以下の子供たちの間で麻疹の発生が増加しています。現在の全国予防接種のスケジュールによると、最初の麻疹ワクチン接種は生後8ヵ月の乳児に行われています。8ヵ月未満の乳児の母からもらった麻疹抗体のレベルを調査し、まだ、乳幼児に最初の麻疹ワクチン接種の最適な年齢を得るために、私は研究を行いたいです。